

花の甲子園

室蘭・海星学院高校華道部

全道2位 過去最高

出場3人「一生の思い出に」

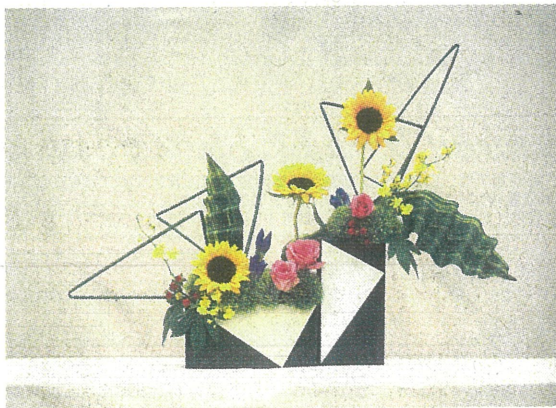
室蘭・海星学院高校華道部(佐々木一部長、12人)が、このほど開かれた「Ikenobo花の甲子園2020」北海道大会で2位と健闘。惜しくも全国出場は逃したが、過去最高の成績に喜んでいる。

北海道大会は例年札幌市内で開催していたが、新型コロナウイルスの影響で本年度はリモート審査に変更。従来大会は各学校から3人が出場し公開で三つの作品を生けるが、今回は3人が交代で一つの作品を作りました。

同校からは佐々木部長(過去最高の2位となった海星学院華道部の(左から)奥山さん、佐々木部長、常盤さん

(2年)、常盤百花さん(3年)、奥山佳保さん(同)が会場。初めに奥山さんがメインになる花を生け、佐々木部長がフトイに針金を入れて三角形を作り、常盤さんが最後にハランを波形に加工して表情をつけた。制作過程の動画と完成写真、作品に込めた思いのプレゼンテーションを大会事務局にメールで送り、今月5日に結果が発表された。常盤さんは「思いを一つにして、後悔のない一生の思い出になる作品ができました」と笑顔を見せた。奥山さんは「個性豊かな3人なのでまとまるか心配だったが、いろいろな方の意見を聞き、納得のいく作品を生けることができました」

と語った。佐々木部長は「初のリモート大会となり経験のない中、大会に出場しない部員も協力してくれてうれしい結果となりました」と振り返った。8年前から同校で指導する指導顧問の吉澤万起子先生は「全員で相談しながら、気持ちが一つになっていく様子が見えた。全国大会には出場できないが、コロナだからこそそのつながりの大切さを感じた」と生徒の健闘をたたえた。(北川誠)



北海道大会に出品した作品